

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読んで、以下の設問1～3に答えなさい。

(50点)

17世紀のヨーロッパは、近代合理主義の思想や学問が本格的に確立されて、自然科学の研究が進歩した。自然や社会に関する認識が深まるとともに、学問の方法論や認識の方法にも関心が向けられるようになった。(a) [1. ジョン＝ステュアート＝ミル / 2. ハーヴェー / 3. ブライト / 4. フランシス＝ベーコン] は観察と経験から一般法則を導く(b) [1. 演繹法 / 2. 帰納法 / 3. 单子論 / 4. 弁証法] によって自然現象を解明することを説いてイギリス経験論を大成し、ヒュームは経験論をさらにおし進めてすべての存在を疑う懐疑主義を説いた。数学的な論証法による合理的認識方法を説き、(c) [1. 『純粹理性批判』 / 2. 『新オルガヌム』 / 3. 『プリンキピア』 / 4. 『方法叙説』] を著したデカルトは大陸<sup>①</sup>合理論の流れを作ったが、18世紀末に(d) [1. カント / 2. ジェンナー / 3. ニーチェ / 4. フィヒテ] がイギリス経験論と大陸合理論を統合してドイツ観念論の基礎を形成し、(e) [1. ダランベール / 2. ヘーゲル / 3. ライプニッツ / 4. ランケ] によって継承・発展された。

宗教改革以後、プロテスタントとカトリックとの宗教対立と内乱が続くなかで、<sup>②</sup>人々は国家と秩序について深く考えるようになった。ボーダン『国家論』において国家主権の概念を定式化し、ルイ14世に重用された神学者(f) [1. テュルゴー / 2. ネットセル / 3. ボシュエ / 4. リシュリユー] は王権神授説を唱え、ホッブズやロックらは、国家の起源は自然状態における自由・平等な個人が自然発生的に取り結ぶ契約であるとする<sup>③</sup>社会契約説を発展させた。

さらに、人間の理性の光に照らして物事を検討し、迷信や社会の偏見を打破すべきことを主張する<sup>④</sup>啓蒙思想がとくにフランスで盛んになり、教会や<sup>⑤</sup>絶対王政がその批判の対象となった。しかし、近代化の遅れた国々では啓蒙思想が絶対王政と結びついて、いわゆる啓蒙専制主義を生み出した。たとえば、プロイセンでは、宮廷に啓蒙思想家を招き、「君主は国家第一の下僕」と称した(g) [1. ヴィルヘルム1世 / 2. エカチェリーナ2世 / 3. フリードリヒ2世 / 4. ヨーゼフ2世] が、貴族の強力な伝統的特権を抑えるために旧式なものを批判する啓蒙思想に依拠して、上からの改革と富国強兵を進めた。また、啓蒙思想は経済の領域に

も適用され、『経済表』を著した(h) [1. アダム＝スミス／2. ケネー／3. マルサス／4. リカード] らが、富の源泉を土地にもとめる重農主義の理論を生んだ。

いち早く産業革命を成し遂げた(i) [1. アメリカ合衆国／2. イギリス／3. オランダ／4. フランス] では、圧倒的な工業力を背景に自由貿易を求めて自由主義の思想が発達したが、個人の自由な利益追求と社会全体の利益の増進をどのように調和させるかが問題となり、(j) [1. オーウェン／2. スペンサー／3. ベンサム／4. リスト] によって「最大多数の最大幸福」を標語とする功利主義が提唱された。また、産業資本主義の発展により、豊かさを増す裕福なブルジョア階層とともに貧困や劣悪な生活条件に苦しむ労働者階層がうみ出された。こうした社会背景のなかで、自由競争そのものを制限したり、私的所有の廃止によって貧困や社会問題を解決しようとする社会主義の思想が生まれた。<sup>⑥</sup>

**設問 1** 文中の(a)～(j)について、それぞれの [ ] 内の1～4の選択肢の中から最も適切なものを1つ選び、番号を解答欄Ⅱ－Aに記入しなさい。

**設問 2** 文中の下線①～⑥に関するつぎのa, b, cの記述のうち、aのみ正しいときは数字1, bのみ正しいときは数字2, cのみ正しいときは数字3, aのみ誤りのときは数字4, bのみ誤りのときは数字5, cのみ誤りのときは数字6, すべて正しいときは数字7, すべて誤りのときは数字8, を解答欄Ⅱ－Bに記入しなさい。

① 大陸合理論について

- a 『パンセ』を著したパスカルは「人間は考える葦である」と説いた。
- b 『倫理学』を著したスピノザは、物質と精神を神の属性と考える汎神論を説いた。
- c デイドロらが編集した『百科全書』は、大陸合理論の思想を集大成したもので、内外に大きな社会的反響を呼んだ。